



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会  
報  
第16号

発行者・会長 長吉 泉  
編集者・委員長 神田 清  
発行所・関東同窓会事務局  
〒100 東京都千代田区永田町  
2-4-11フレンドビル7F  
電話 03(5251)2730  
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷 株式会社

# 特集 総会

## 平成九年・同窓会総会 新会長に長吉氏が就任 当番幹事の熱意が溢れた 第十一回総会・懇親会

●竹田高校関東同窓会

「第十一回総会が去る六月二十八日出、新宿センチュリーハイアットにて一九〇余名の参加を頂き盛大に開催されました。」

本年の総会の主な議案には、任期満了に伴う新会長の選任と、年次会務、会計報告が上程されました。新会長には満場一致で長吉泉氏が選任され、副会長には、経験豊かな近藤氏、栗生氏が留任され、新たに佐藤映之氏が選任されました。会計報告等が原案通り可決され、又、次回総会は、昭和三十三年卒、四十二年卒の方々が担当されることになりました。



新会長 長吉 泉 (昭26年卒)

不肖、私は、伊東会長と栗生副会長から、後任会長を受けるよう強く求められました。困惑し同期の諸氏に相談したところ「同僚の神田清氏(現・広報委員長)がサポートして下さい」との意見をいただいた上で、お受けすることとし、去る六月二十八日開催の第十一回総会で第四代に就任しました。

今年、本会創立十周年、又母校創立百周年の記念すべき輝かしい年であり、責務の重さに身の引締る思いであります。微力ですが役員各位をはじめ会員皆様のご支援ご協力をいただき、精一杯働きます。よろしくお願い申し上げます。

さて、十数年前のことではありますが、同期で勤務を同じくしています伊藤瑛介氏から、「先日帰郷の際、田北和義先生(現同窓会長)から、東京二六会の肝入りで関東支部を結成して欲しい旨要請されたが、どうしたものか」と相談を受けました。

当時の私共は五十才そこそこの若輩でしたから、少々重荷でありますので、在京の大先輩にお話し下さるよう具申ししようということになりました。

後に、岩城屋ホテルでのパーティーで、希しくも、田北先生から同様のお話がありました。このことは、伊藤氏から聞き及んでいる旨と前述の私見を申しあげたことを覚えております。

時を経て、十年程前の一九八

六年十一月三十日の日曜日の午後、渡辺正治さん(当時 日本パライジング 副社長・昭和十年卒業)から招集がかかり、神田駿河台の主婦の友会館に十数名が集められ、名称を「大分県立竹田高等学校関東同窓会」、初代会長に高宮昇さん(昭和八年卒業・当日ご欠席)を推戴することなどが決まりました。

散会后、渡辺さんと後藤鉄石さん(昭和十年卒業・第二代会長)から、近くの山の上ホテルでのお茶に誘われ、その席で、私に「幹事長として会則の立案など創立総会の準備作業をするよう」とのご下命があり、止むなくお受けすることにしました。

爾來十年間、私は幹事長または副会長として、高宮・後藤・伊東の三代会長にお任せし、今また、会長の要職をいただくことになりました。

本会の総会を春に設定しましたのは、秋の竹田会とて、毎年二回参集できるよう計ったからです。また、総会時のアトラクションを、選歴翌年の満六十才年次生にお願いしたのは、還暦のお祝の会合で相談いただけると考えたからです。そして、将来に備えて五十才年次生と共同で担当していただきました。

本会は、今や、県下各校に類なき関東で第一等の同窓会となりました。この伝統を大切にし更なる発展を期して次世代に継承したいと思えます。



### プログラム 〔総会の部〕

- 11:30~12:10
1. 開会のことば
  2. 会長あいさつ
  3. 会務・会計報告
  4. 監査報告
  5. 新会長あいさつ  
〈新役員紹介〉
  6. 来賓あいさつ
  7. 閉会のことば



当番幹事の開会のことばと井手名司会による進行

〔懇親会の部〕

12:20~14:30

1. 開会のことば
2. 来賓の祝辞と紹介
3. 乾杯
4. 会食・歓談
5. アトラクション
6. 次回当番幹事へバトンタッチ
7. 「校歌」「荒城の月」合唱
8. 閉会のことば



来賓久山校長先生のご挨拶

フォトで綴る!!  
第11回 総会の懇親会風景

本年は若い世代の会員も多く、190余名と例年にない大勢の参加者で熱く盛り上がった懇親会でした。



41期生による素人神楽



バイキングスタイルでの会食



ヤングギャルか? 「見事なカンカン踊り」



あなた様の本職は?

# 平成八年度 会務報告他



幹事長  
西 誠  
(昭30年卒)

去る六月開催の第十一回総会において、幹事長の重任を仰せ付き就任致しました。浅学非才の身で、その任に非ずと固辞したのですがお許しが出ませんでした。相談役、長吉会長をはじめ、先輩同輩役員各位の叱咤激励を得て微力を傾注し、任務を果す所存ですので、どうかよろしくお引き廻しの程お願い申し上げます。

## (一) 役員会他開催報告

平成八年度(平成八年四月)

〔平成九年三月〕

●平成八年四月五日 役員会

学士会館、出席五名

●春の幹事会開催の件

●第十回総会・懇親会について

●新年度にあたり向後一年間の予定について

●平成八年四月十九日 幹事会

学士会館、出席二四名

●第十回総会・懇親会準備状況報告

●母校百周年記念行事の件

●各委員会活動報告

●各学年クラス会報告

●会計現況について

●広報紙発送方法について

●平成八年六月七日 役員会

学士会館、出席五名

●総会・懇親会における役割分担について

●総会・懇親会運営内容再確認

●総会・懇親会経費予算について

●平成八年六月十五日 第十回

総会・懇親会 於京王プラザ

ホテル、出席一七八名

△総会の部▽

●開会、会長挨拶、会務・会計

●報告、監査報告、来賓挨拶、

閉会

△懇親会の部▽

●当番幹事、昭和三十年卒(第

二期)、四十年卒(第七期)担

当

●開会、来賓紹介、来賓祝辞、

## 会 計 報 告

### 収支決算報告書

(平8.4.1から平9.3.31まで)

#### 1. 収入の部

① 維持会費	2,089,820円
② 総 会 会 費	1,309,000円
③ 広 告 料 金	150,000円
④ 総 会 祝 金	30,000円
⑤ 受 取 利 息	1,185円
計	3,580,005円
前期繰越	1,712,915円
合 計	5,292,920円

#### 2. 支出の部

① 総会費(第10回)	2,318,450円
② 会 議 費	415,636円
③ 事 務 通 信 費	258,374円
④ 会 報 費	723,501円
⑤ 慶 弔 費	36,462円
計	3,752,423円
次期繰越	1,540,497円

#### 3. 次期繰越の内訳

① 現 金	82,707円
② 預 金	1,457,790円

上記の通り報告します。

平成9年5月30日

幹事長 佐藤 映之 @

### 監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成9年6月4日

監事 吉田 忠 @

- 乾杯
- 抽選会 ホテル宿泊券、ディナー券等
- 司会 落語家 柳亭市馬氏(会員)
- 郷土産品コーナー設置
- 出席者に竹田銘菓「荒城の月」土産
- 平成八年八月十六日 総会・懇親会の反省会 △役員、各委員会委員、学年幹事、当番幹事▽ 於上野蓬萊閣、出席二五名
- 第十回総会。懇親会の総括
- 会計概況報告、会場運営の反省事項
- 参加者の反応について
- 新入会員及び若年層に対する配慮不足について
- 百周年寄附要請における本部よりの手順について
- 企画委員会と当番幹事の連携について
- 平成八年九月六日 役員会
- 学士会館、出席六名
- 役員改選の件
- 本校同窓会(十月十九日)参加について
- 百周年寄附の協力推進について
- 秋の幹事会、会場手配の件
- 平成八年十月十九日 本校同窓会 於竹田ホテル岩城屋、伊東七五三会長出席
- 平成八年十一月二十九日 幹事会 学士会館、出席二三名
- 第十回総会・懇親会の結果報告
- 母校情報
- 次年度に向けての課題について
- 欠席頻度の多い学年幹事について
- 各委員会の行動計画について
- 平成八年十二月六日 役員会
- 学士会館、出席七名
- 百周年寄附における関東同窓会関係の状況について
- 百周年記念式典 平成九年九月二十四日(ゆ確認)
- 役員改選期(平成九年四月)にあたり予備的協議の件
- 平成九年二月七日 役員会
- 学士会館、出席八名
- 役員改選の件
- 各委員会委員の一部交替の件
- 学年幹事の統投の確認と一部交替について
- 平成九年三月十四日 役員会
- 学士会館、出席九名
- 新役員候補について
- 新委員、新学年幹事のリストアップについて
- 春の幹事会の日程決定と会場確保について
- 新名簿発行準備状況について
- 広報紙「臥牛」次回発行について

(二) 会計報告 (表参照)

会計報告は平成九年六月四日に吉田忠監事が監査を実施し、適正且つ正確である旨の報告があり、総会において承認可決されました。

委員会報告

企画委員会便り

企画委員 桑島 輝茂 (昭42年卒)

第十一回総会を去る六月二十八日(土)、新宿センチュリーハイアットにて一九〇余名の参加を頂き無事終了できました。

次回第十二回総会は昭和三十三年卒、四十二年卒の方々に当番幹事をお願いし、平成十年七月十一日(土)、場所新宿センチュ

リーハイアットで予定をしておりますので会員各位今年以上のご参加をお願い致します。

特に今年の当番幹事さんには、最大級の拍手を送りたいと思います。生野良友さん(昭32年卒)のピアノ生演奏、滝廉太郎の曲を中心としたBGMに始まり、

幹事さん自ら素人神楽の舞と落差を演出したカンカン踊りが会場を盛り上げました。会場を暗くしてスポットライトを当てる等、芸の細い工夫が随所にみられ、参加された方は大いに満足された事と思います。

又、柳亭市馬師匠(昭55年卒)の飛入りでの小話はさすが真打を感じるものがありました。会員各位、市馬師匠を今後とも益々の応援をお願いします。

最後はピアノ演奏と共に全員での合唱①ああ滝廉太郎②花③

荒城の月④竹枝校歌⑤戦い勝てり時は高校生気分を肩を組み大きな輪になり盛大なうちに終宴となりました。今年の当番幹事代表の上田武勇さん(昭31年卒)、後藤猛さん(昭41年卒)外皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。



大分県立竹田高等学校

竹田高等学校同窓会新役員名簿

(平成9年6月28日現在)

相談役

- 高宮 昇(昭8年卒)
- 渡辺 正治(昭10年卒)
- 伊東 七五三(昭20年卒)

顧問

- 中川 清次(昭4年卒)
- 加藤 郷一(昭5年卒)
- 工藤 幸男(昭6年卒)
- 田部 健(昭11年卒)
- 里見 菊雄(昭26年卒)
- 池内 勇吉(昭23年卒)
- 工藤 敏暢(昭29年卒)

会長

長吉 泉(昭26年卒)

副会長

近藤 秋男(昭23年卒)  
栗生 利信(昭23年卒)  
佐藤 映之(昭28年卒)

監事

吉田 忠(昭10年卒)  
徳丸 大典(昭20年卒)

幹事長

西 誠(昭30年卒)

副幹事長

服部 恭一(昭34年卒)

総務委員長

渡辺 真一(昭23年卒)

企画委員長

句坂 慎輔(昭32年卒)

組織委員長

川合 文彦(昭30年卒)

広報委員長

神田 清(昭26年卒)

名簿委員長

山口 雄三(昭29年卒)



熱演中の柳亭市馬師匠



祝賀会での久山校長挨拶、田北同窓会会長(右端)



長吉新聞東同窓会会長(中央)、姫野同窓会副会長(右2人目)、衛藤竹田市議会議員(右端) 他有志



久山校長(中央)、阿南講師(右2人目)、後藤元県議会議長(右端) (於 校長室)

# 創立100周年を迎えた母校での 記念式典・祝賀会

平成9年9月24日(水) 於 母校

## 母校百周年記念式典 に参加して!!

副会長 佐藤 映之  
(昭28年卒)

竹田市街から向町の隧道を抜けると旧鷹匠町、岩間に南北にたたずむ学舎。戦後間もない頃の軋しむ廊下、雨漏り、崩れ落ちた壁、とは一変して近代建築の粋をあつめた機能的な教室、体育館、そして運動場、威風堂々として伝統校にふさわしい。明治三十年、旧岡藩藩校の跡地に設立されて延々百年。藩校の脈絡「文武両道」の精神を汲み、「自律自尊」「進取研鑽」「和衷協同」の教訓のもと幾多の変遷を経て、その間、二万四千人の卒業生を世に送り、伝統と歴史を思うとき、その重厚さを感じずにはいられない。幸いにも記念すべき百年の慶事に長吉関東同窓会々長に帯同して参加する機会を得て感無量であった。

式典は野分が樹々を吹き抜ける九月二十四日、午前九時半、体育館に於いて、在校生、PTA、同窓生、来賓、出席のもと定刻に開会、厳粛のうちに手際よくプログラムがすすめられた。〔第一部〕記念式典 (1)開会のことば、(2)国歌斉唱、(3)校長式辞、(4)県教育委員会挨拶、(5)来賓祝辞、(6)祝電披露、(7)同窓会長挨拶、(8)修道記念学林会理事長挨拶、(9)PTA会長挨拶、(10)生徒会長挨拶、(11)校歌斉唱、(12)閉会のことば

〔第二部〕祝賀会は場所を商工会議所ホールに移し盛大に催された。関係各位の挨拶ののち長吉関東同窓会会長の乾杯の音頭で宴に入り、アトラクションは関東同窓会ではお馴染みの柳亭市馬師匠の巧みな話術で笑いを誘い、所定の二時間は終始和やかに故旧を温め、万歳三唱で会場をあとにした。

### 創立100周年記念行事

平成9年9月24日(水)

1. 記念式典 9時30分 (体育館)
  - (1) 開会のことば
  - (2) 国歌斉唱
  - (3) 校長式辞
  - (4) 県教育委員会挨拶
  - (5) 来賓祝辞
  - (6) 祝電披露
  - (7) 同窓会長挨拶
  - (8) 修道記念学林会理事長挨拶
  - (9) PTA会長挨拶
  - (10) 生徒会長挨拶
  - (11) 校歌斉唱
  - (12) 閉会のことば
2. 慶祝行事 10時40分 (体育館)
  - (1) 記念講演 「阿南 惟正」氏 (大平工業㈱社長)
  - (2) 記念詩吟 「深田 光霊」氏
  - (3) ブラスバンド演奏 大分県立竹田高等学校ブラスバンド部
3. 祝賀会 13時 (竹田市商工会議所大ホール)
  - (1) 開会のことば
  - (2) 実行委員長挨拶
  - (3) 校長挨拶
  - (4) 乾杯
  - (5) 来賓スピーチ
  - (6) アトラクション (柳亭市馬師匠)
  - (7) 万歳三唱
  - (8) 閉会のことば



記念講演会場風景・先輩阿南惟正氏の講演に傾聴中のご来賓と在校生一同

燃える!!

# クラス会・同期会

## 伝統のストームで

### 竹高健児の心意気

関東三六会 矢野千賀子  
(昭36年卒)

昭和三十六年に竹田高校を卒業した第十三回生の卒業三十五年記念同期会を、平成八年八月二十三日に一泊で熱海市の「ホテル大野屋」で開催し百名が集結した。働き盛りの級友達は、最も忙しい時代で、海外駐在者も多く、百十数名の申し込みがあり乍ら、仕事上、キャンセル者も出て当日は、百名の出席となった。

全同期生の九十八%から、何らかの返事を頂き近況もわかった。楽しい準備期間の八ヶ月であった。ブルームーンの心積もりでどの誘いに二組のカップル、はるばるドイツから里帰りして、御出席下さった女性もいらつしやう。児玉輝義さんの御好意に甘え貸切りバス二台とホテルを格安で、お世話して頂き、東京駅からバス二台で出発した。道中、修学旅行の様だと大ハシヤギ。誰もが高校時代にタイムスリップしていた。

ホテルでの懇親会では、諸々の報告、挨拶の後、「伊豆大鼓」



竹田高校35周年記念同期会 歓迎

の景気づけに座は盛り上がり、懐しい友との再会に話も弾んだ。中には卒業後三十五年振りに会う人もおり、昔の面影を見つけては懐しさもひとしお、握手をして歓声をあげていた。懐しい方言での会話の飛び交う中、記念写真を撮り合うカメラのフラッシュノ自慢のノドを披露するカラオケ……気分はすっかり高校生。このまま、時よ止まれ! と思つた程の興奮度!!

最後は校歌、荒城の月を歌い、百名全員で輪になり炭盆節を踊

り、伝統のストームで「竹高健児の心意気」を示し、五年後の再会(四十周年記念同期会、もしくは還暦の祝賀会)を約して実に名残惜しく散会した。

竹田、大分方面をまとめて下さった吉川公平さん、海老納康子さん、その他、地元の方々には厚く御礼を申し上げます。

### 関東同窓会に出席して

吉森 美映  
(昭43年卒)

四十三年卒業の私共(十一名)は、六月二十八日、新宿センチュリーハイアットで行われた関東同窓会に出席しました。平成十一年には、私共に関東同窓会の幹事が巡ってきました。そこで今年度の同期会は下検分を兼ねてこの会を一次会として、皆で出席することを、昨年のうちに決めておりました。

ほとんどの者が初めての出席で、少し緊張して臨みましたが久山校長先生のお話や、幹事の方々の神業などを見るうちに、肩の力も抜け、周りの方とお話しする余裕もできました。

悠々自適な毎日をお過ごしとお見うけできる大先輩の方々、昔の面影が残る少し先輩の方々、集う人皆、彼の竹田の地で青春時代を過ごされたのだと思うと本当に感無量でした。

まだまだお話をと思う間に、楽しく心地良い二時間は、また

たく間に過ぎてしまいました。出席者に良き思い出が残るようにと、幹事の方々のご苦労は大変だったことと思います。先輩方が育んでこられたこの会を継続させていくために、二年後は、私共も、精いっぱいお手伝いさせていただきます。

二次会は、伊勢丹会館の一隅でお茶会でした。さらに二名の方と、関東同窓会に最年少で出席した大学生(同期の甥)も加わり、近況報告と雑談で、しばし遠慮のない時が過ぎました。三次会は若者で賑う居酒屋へ。大学生から最近の高校や竹田の様子を聞いたりして、ひざを交えての夜の部でした。

同期会も、最近の集りは、当初の半数となっています。しかし、毎年、新しい人の出席があります。年令的にも、教育や老親の介護など、きびしい時期ですが、毎年、開いていますので是非御出席下さい。



## 会員特別寄稿

### 関東同窓会支部に望むこと

添田 亜紀  
(平2年卒)

私が同窓会に初めて参加させていただいたきっかけは、学生時代に御招待していただいたこととです。

親元を離れ、東京でなんとか生活をしていった私にとって、同じように頑張ってきた成功な先輩方の姿は、とても心強く感じました。

私は、このような、すばらしい「会」に、同年代の仲間にも、もっと参加してほしいと思います。そしてそのために、できれば私達のように、まだ未成熟な者でも気軽に参加できるように、アットホームな「会」であることを希望します。「社交会」である前に、「同窓会」であって欲しいのです。

私は、関東同窓会が田舎を離れ東京で頑張っている仲間にとって、他では得ることのできる心をつながり「会」が見つかるとてもすばらしいことではないかと考えています。



# ふるさと名所紀行

～竹田荘～

## ●武家屋敷

頑丈な黒塗りの門。風雪に堪えた、時の流れを感じさせる土塀。奉行長尾家の前庭園、切腹の間がある北条家などの名家が軒を連ねる。



## ●旧竹田荘(国指定史跡)

田能村竹田は、岡藩藩医の次男として生まれる。詩画を好んで各地を遊歴し、当時の文人学者と交わりが多かった。日本南画界の最高峰。天保六年(一八三五年)大阪滞在中に病死(五十九才)。現在の生家は、寛政元年(一七八九年)十二月類焼し、翌寛政二年に再建。約二〇〇年前の建築。



佐藤 毅士 (昭28年卒)

戦国時代の武将であり織部流茶道の創始者である古田織部は利休七哲の一人にも名を連ね、日本茶道史上に一時代を画したが、大坂冬の陣で徳川方にありながら豊臣方に内通したとして家康から切腹を命じられ、七十二歳で自害した。当時徳川方優勢の状況の中でなぜ密通したのかナゾにつつまれている。織部一族断絶の後、唯一、長女センと結婚した義弟の古田重統が豊後岡藩中川家の家老となり、その子孫によって織部流が継承されて現在に至っている。特に十一世中務主計(一七八八〜一八一一の間家老職)は号を不染斎と称し、「洗竹窓」と名付けた茶室も建てている。これは現在の竹田荘のはずれにあり、この地に織部灯籠が残っている。明治に至り十四世古田重名宗関は上京して大正の初めまで式正織部流の拡大に努めた。その後、織部流は十五世原鉄石を経て、十六世秋元瑞阿彌の時、千葉県無形文化財に指定され、現在秋元傳石先生が流派を継承されている。又、明治まで織部流を守ってきた竹田市でも但馬屋オーナーの板井良助さんを中心に織部研究会が作られ、文献の研究と織部流茶道の復興に力を注いでいる。

利休のサビの茶道と異なり、戦乱の中をくぐり抜けてきた武士のエネルギーを基にした織部の茶道はヘウゲタ異型的美を創り出し華やかなものを愛するバサラの美を教えたのである。今、織部が映画や単行本で色々と取り上げられているのも、このあたりにあるのではなからうか。

### 先輩の皆様よろしく お願い申し上げます

法政大学工学部電子情報科

四年 片岡 一樹

(平6年卒)

私は竹田市大字竹田町の出身でございます。平成六年四月、法政大学工学部に入学し、現在小金井市でアパート生活をしております。

竹田高校時代は三年間野球部に所属し、高校球児の憧れの甲子園を目指し、部員一丸となつて放課後は日没まで、休日も休まず練習、プレーに没頭しました。

チームのためめぬ努力の成果として、高校二年、三年次の県大会では、何れもベスト8まで勝ち進むことができました。下記の新聞のスクラップ、当時(高校二年次)の面影を偲ぶ貴重な資料でございます。

夏の甲子園大会が終わり、大学受験に向けての猛勉強を開始しました。これまでは野球に没頭していたため、学業成績は疎かになりましたが、野球で鍛えた集中力を活用し、法政大学に入学することができました。

大学では生活費を稼ぐため、サークル活動は出来ず専らアルバイトに追われる日々でした。

## 羽室台が猛攻24安打

竹田、柳ヶ浦も8強入り



大学四年間、郷土の大先輩が設立された、財団法人里見奨学様より奨学金を給付して頂き深く感謝しています。お陰様で就職先も電気機器メーカーに内定致しました。

これからは社会人として精一杯の努力を重ねる所存でございますので、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い致します。



### 訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

平成9年7月25日 没

栗生誠之助(昭25年卒)

享年65歳

平成9年8月6日 没

工藤 季彦(昭26年卒)

享年64歳

## 栗生誠之助君を 偲んで

鐘ヶ江碩則  
(昭25年卒)

畏友、栗生君が去る七月二十五日癌性髄膜炎のため六五歳で亡くなりました。顧みますと、彼とは幼稚園から高校卒業まで同じ学び舎で巣立った刎頸の友でした。彼は非常に世話好きで、高校三年間は卓球部に属しマネージャー的存在で、我々部員が安心して練習出来たのは骨身を惜しまない彼の援助があったからです。

先日、佐藤義士先生(当時卓球部部长)からお便りを頂き、その文中に「栗生君のご逝去は千載の悲しみですね。自分は裏方に徹し、みんなの楽しむ姿を見て喜ぶ人でした。我々卓球部のグループにはなくてはならな

い人でした。残念です。」と書かれてありました。又、関東二五会(昭25年卒)の会長として設立以来、会の運営に物心両面で尽力され、今年は全国二五会が東京で実施されるので彼を中心に準備を進めていた最中でした。無念でなりません。

社葬は立川市内の斎場で営まれ、二〇〇〇人を超す参列者で、生前の交際の広さ、人柄の良さがうかがわれました。告別式では長吉さん(関東竹高同窓会長)の弔辞を聞きながら昔日の彼の姿を思い出し、万感胸にせまる思いでした。

栗生君!! どうか安らかに眠って下さい。

## 早過ぎた「工藤さんの死」をいたんで

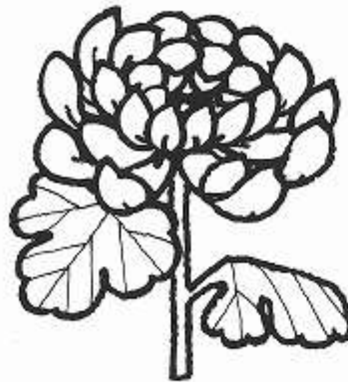
坂田 教子  
(昭26年卒)

八月七日の朝、工藤さんの突然の訃報にショックが社内を駆け抜けました。一九八七年六月、㈱アートマンと云う新店がオープンして、初代社長故加覧氏の絶大な信頼に、工藤さんは全力で店作り専念され多大な業績を残されました。時には若い社員を叱り、又彼等と一杯やりながら商売のノウハウを話して大いに盛り上げて居たとか。工藤さんの会社の中でのエピソードはつきません。「良く叱られたな

ア!! だから今の自分が有る」と若者達は涙します。故加覧氏の付けた「湯上がりスマイル」と云うニックネーム、シャイでダンディでさわやかな笑顔と彼の心意気は全従業員の心の中に生きています。

せっかちな工藤さん、呑めないお酒で人生を急ぎ過ぎたのは。工藤さん、そちらでもゴルフと釣り三昧ですか?

安らかに 合掌



### 詩歌・文芸

## 愛する花(二話)

宮田 文明(昭37年卒)

霊峰西に阿蘇の峰  
東に祖母傾き山  
竹高の友はげまして  
今開け出で  
錦の旗ここに掲げし  
豊後の血潮吹き出で  
ここに咲かそう  
友の愛  
磨きて ここに光りくる

## 会員の皆様へ御礼!!

### 『大盛會裡に開催された』

### 母校百周年記念式典・祝賀會

●御礼!! 百周年記念事業會募金に多大のご賛同を賜り、有り難く厚く御礼を申し上げます。

●於 母校

●平成9年9月24日(水)

●竹田會

●平成9年11月14日(金)

●中野サンプラザ

●第十二回 関東同窓會總會

●平成10年7月11日(土) 予定

●午前11時

●センチユリーハイアット

### 編集後記

母校が創立されて今年で百周年、この様な記念すべき年に「第16号臥牛」を目出度く発行できました事を、広報委員一同心から喜ぶと共に皆様方のご協力に深く感謝いたします。今回は、より親しめる臥牛をめぐし写真を多く用いビジュアルな紙面にし、若い方にも投稿して戴きました。今後も幅広い会員層による広報「臥牛」へのご支援・ご協力をお願いします。

### ※「投稿」をお待ちしています!!

若い世代の皆様への「クラス会情報」や「特別寄稿」等々のご投稿を特に期待してお待ちしております。



### 投稿内容

- ① クラス会情報
  - ② 故郷の便り
  - ③ 海外便り
  - ④ 会員の語らい
  - ⑤ 詩歌・文芸
  - ⑥ 会員の催し
  - ⑦ 会員消息
  - ⑧ その他
- 連絡先 〒279 千葉県浦安市今川2-10-11 31 神田 清 宛(広報委員長)

☎ 047-354-9456